

# ふれあい喫茶で地域ボランティア

神戸親和女子大学 福祉臨床学科 交流シリーズ②

「きょうは、飛び出すクリスマスカードを作しましょうね」。7人のお嬢さんたちが笑顔でテーブルを回ってアドバイスします。ここは神戸親和女子大学構内で開かれている「ふれあい喫茶」。この日（12月7日）はお年寄り15人が来訪。カードは、用意された台紙にサンタや雪だるま、ツリーを貼って色を塗り、メッセージをつける簡単なものですが、孫のようなお嬢さんたちとおしゃべりしながらの作業が楽しそうです。

Kさんは「1人で家にいるより、皆でおしゃべり出来るのが楽しい」

「できたカードは家にかざっておくわ」「私は孫にプレゼント」「居心地が良くて、毎回来てますよ。学生さんも優しく、来るのが待ち遠しい」とすっかりリラックス状態です。

ふれあい喫茶は月1回開かれ、福祉臨床学科のゼミが交代で受け持っています。この日は山口倫子ゼミが当番。4年次生の原口真紀、青柳頌子さんに話を聞きました。「お客さんはいつも20人くらい」「何をやる

か、で悩みますね」「今日は台紙やサンタなどの材料、小道具を用意するのが大変でした」「卒業後は、福祉や保育関係に進む人が多いので喫茶の仕事はいい経験になります」と話してくれました。

北区鈴蘭台北町にある神戸親和女子大学は「先生になるなら親和」といわれるくらい地元では名が通っており、「開かれた大学」をキャッチフレーズに、地域との交流や社会貢献活動に力を入れています。子どもたちのための〈キッズオープンキャンパス＝10月〉や地元の職人を招いての〈モノづくりフェスティバル＝年1回〉、シルバー対象の〈ワクワクスポーツ教室〉〈保育体験講座〉……。〈ふれあい喫茶〉もその一つです。コーラス部やダンス部、箏曲部など趣味を生かしながら施設や小中学校、幼稚園へ出かけるクラブもあります。北区役所や森林植物園などともボランティア協定を結んでいます。

一方、東北大震災への支援活動にも積極的で、仙台を拠点に夏・冬の2回出かけています。次は熊本へ、と準備中だそうです。このうち、モノづくりフェスティバルはユニークな企画。ローソク、皮靴、か

らくり人形、そろばんなどざっと20種類の地元の職人さんをお呼びして実演してもらったイベントで毎回200人くらい子供たちが集まるそうです。

須郷陽治・地域交流センター課長の話によると、「大学あげてボランティアに取り組んでおり、学生数約1800人のうち、実に981人（2015年）がボラン



ティア登録をしています。サークルやクラブでやるほか、個人であちこち出かけたり、仲間を募って活動したりするケースも少なくないですね」ということです。北区唯一の大学ということもあって、学生による出前ボランティアは地元での評判がよく、「要望に追いつかないという点が、悩みといえば悩みですね」と。（取材・南形徹）【写真】ゼミ学生のアドバイスでXマスカードを作る参加者たち

## 折り紙にチャレンジしませんか

手先の訓練や頭の体操にもってこいの折り紙。3回続いた認知症講座の関連として次回は「折り紙教室」を開催します。折り方を忘れた方、新しく始めたい方、チャレンジしてみませんか。「折り紙グループ悠々」代表の榊田みどりさん（3期）を講師に、折り紙の基本を学びます。淡路忠義（5期）、飯川泰郎（12期）さんが助手役としてお手伝いしてくれます。▽1月25日（水）13時～15時。村内のひよどり保養所研修室で。市販の折り紙を持参のこと。問い合わせは、道満会長まで（TEL 583-3228）。